



渋谷支部 大石次則 会長(66歳)

PROFILE

東急百貨店相談役。支部では副会長などを歴任。中学から始めたサッカーは、会社のクラブ活動や地域のシニアチームにも所属し50代までプレーを継続。現在は観戦する側に立場を変え、サッカーに加えてラグビーの応援にも熱が入る。渋谷のまちを一望できる展望施設「SHIBUYA SKY」はイチオシスポットの一つ。

渋谷から連携を広げ まちの課題も強みに変える

渋谷区は「働いてよし、遊んでよし、暮らしてよし」のまちです。表参道や原宿のようなトレンドの発信地、代々木公園や明治神宮のような広大な緑、恵比寿などの閑静な住宅地もあり、様々な要素がそろっています。渋谷駅中心部では大規模な再開発が進む一方、道玄坂の渋谷百軒店には、私が学生の頃からある古き良きお店も残っています。こうした多様な顔を持っているからこそ、**特定の人に限らず、場所に依りて誰もが楽しみを見つけれられることが渋谷の魅力**です。

弊社東急百貨店は渋谷を含む東急線沿線を中心に事業を展開しています。例えば、住む場所を選択する際、周辺の商業施設が充実しているかは、1つの判断基準になります。そうした観点で、当社はまちの付加価値を高める上で非常に重要な役割を担っていると考えており、創業の地である渋谷を中心に、魅力的なまちづくりにつながる事業に取り組んでいます。

渋谷区の課題の一つに、オーバーツーリズムがあります。多くの来街者によるにぎわいは喜ばしいことですが、ごみのポイ捨てや路上飲酒などが生じていま

す。せつかくのまちの活気を、課題ではなく強みとするための取り組みの一つとして、**渋谷支部ではインバウンド対応の好事例集を作成予定**です。効果的な対応を区内外に広く紹介することで**来街者がより楽しめる環境整備につなげてまいります**ので、ご期待ください。

また、渋谷区ではハワイのホノルル市や秋田県大館市などとの交流を積極的に進めています。支部会長としては、**区と連携した都市間交流に加え、東商の各支部や大学などとの連携事業を幅広く実施できれば**と考えています。一例として昨年9月には、企業の人手不足対策事業の一環で、区内大学のキャリアセンターと連携した就職情報交流会を初めて開催しました。こうした**連携事業を契機として、渋谷支部のプレゼンス向上にも取り組んでいきたい**と思います。



渋谷区内4大学と東商会員企業との就職情報交流会



杉並支部 神谷次彦 会長(65歳)

PROFILE

東亜紙巧業社長。支部では工業分科会長のほか、2期6年にわたり副会長を務めた。趣味の旅行では国内外問わず様々な場所を訪問。最近では東南アジアに訪れる機会が増え、現地の活気に刺激を受けている。杉並区のイチオシは、日本各地から約1万人もの踊り手が集まり、本場・徳島にも匹敵するにぎわいを見せる「東京高円寺阿波おどり」。

にぎわい受け継ぎいっそう住みよいまちづくりを

杉並区は、**都心への交通アクセスのよさを有しながらも、緑豊かで住みよいまち**であることが魅力の一つです。また、「阿佐谷七夕まつり」や「荻窪音楽祭」など、多様な地域イベントも非常に盛んです。荻窪の魅力を発信するタウンマガジン『ogibon(オギボン)』も、地元若手経営者の「まちの好きなものを応援しよう!」という思いが根底にあって作られています。また、昨年8月には、旅行ガイドブック『地球の歩き方』の杉並区版が、23区では世田谷区に続く2冊目として出版されました。こうした地元の盛り上げる活動が活発で、紹介すべき観光資源にあふれているのも、「**自分たちのまちは、自分たちで盛り上げる**」という気概と、**その地道な努力を代々受け継ぐ伝統が土地に根付いているからこそ**だと思います。

当社は1944年に創業し、高級化粧品という極めて繊細な世界を中心に、紙器印刷に携わってまいりました。品物の箱を開ける時の高揚感と同時に、取り出しやすさなどの機能性を実現するパッケージの提案力を大切にしています。本社は

現在、板橋区にありますが、創業者の祖父が下井草に工場を構えて以来、戦後の焼け野原からまだ使用できる印刷機械を運び出して再起を誓った杉並の地を、大切に引き継いできました。

支部会長としては、「**住みよいまちを支える商工業が「元気」になることを目指しています**。そのためには、まず安心して商売を続けられる基盤が重要です。区内に残る木造住宅密集地域への大災害に備えた対応や、外国人材の受け入れ体制の構築などを通じた人手不足解消への取り組みなど、行政に必要な対策を伝えていく必要があります。**災害にも強く、多様な人材を迎えられる住みよいまちへ。現場の声を届け、地域経済の「元気」をつくり出していきたい**と思います。



荻窪のまちと人を応援するタウンマガジン『ogibon』

新任支部会長が語る区のこれから

東商は昨年11月に新体制が始動。8つの支部で新たな支部会長が就任しました。

2月号・3月号では、4支部ずつ新任の支部会長を紹介します。



練馬支部 井口薫 会長(71歳)

PROFILE

井口機工製作所会長。これまで4期・12年にわたり副会長として、支部の活動を支え続けた。読書を日課とし、休日にはジャズを流しながらお酒をたしなむ。多忙な中でも、週末の家族との時間は大切に、練馬産の野菜を使った「地産地消」の手料理を家族に振る舞うことも。

地域と企業で「人を育てる」

練馬区は、一言で表すと「**緑が育ち、人が育つまち**」です。23区で最大の農地面積を有しており、「**都市農業**」を実践しながら、多彩な農産物が育てられています。また、公園・児童遊園地も23区で最多を誇り、行政の手厚い支援や交通の利便性も相まって、「**子育てのまち**」としても知られています。

当社は1955年に練馬区で創業して以来、独自技術を生かして、特殊ペアリングやターンテーブルなどを製造してきました。「品物は決して妥協せずに作り上げる」という信条のもと、100%の品質を求める顧客のニーズに応えることを使命と考えています。そして、その品質を支えるのは、「人」であり、当社でも今まさに「人を育てている」真っ最中です。大手バイクメーカーで「理想のバイクを造る」という夢を叶えた息子が、2022年から専務として製造・品質管理と経営に参画しました。彼が、日々現場を駆け回り「ものづくり」に真剣に向き合う姿を見て、社員の意識とモチベーションも高まり、一丸となって「100%の品質」を追求してくれています。これまで築いて

きた技術と責任感が、次世代の育成につながっていると実感しています。

私は、練馬支部会長としても、**地域で「人を育てる」取り組みを強化していきたい**と考えています。練馬支部では、**地元の工科高校生と事業者をマッチングする「人手不足対策事業」に注力**していますが、この事業の本質は、「**人材育成**」にあります。事業者には「**社会に出て間もない若者を、時間をかけて育て上げる**」という責任感を持って、この事業に参画していただきたいと考えています。人が育つ環境を地域全体で整備することが、練馬の未来を支えると信じています。私自身も、**地域行政との連携を強化し、地域の将来を担う産業人材の育成に向けて尽力してまいります**。



支部会長に就任早々「都立練馬工科高等学校と練馬支部役員の見学交流会」を初開催。対話を重ねながら連携の輪を広げたいと意気込む。



葛飾支部 大塚喜司 会長(73歳)

PROFILE

光永ビルサービス会長。葛飾支部では、副会長や相談役などを歴任。趣味はゴルフで、昨年には念願の「エージシュート」(自分の年齢以下の打数でホールアウト)を達成。また、同じく趣味の書道は深川不動堂にて週1回稽古に通う。書に向かうことで集中力が高まり、心が落ち着くため、日々の仕事にもより一層励めると語る。

世代や性別を超えたつながりを育み、地域を結ぶ

葛飾区は、昭和の名作「男はつらいよ」を感じさせる、「**人情に満ちたまち**」です。人々が出会い、語り合い、つながる——その温かさが葛飾の魅力です。街並みに目を向けると、伝統と変化が調和しています。商店街に**並ぶ個店や小さな町工場が残る「職住一体」の暮らし**ぶりに、大学や商業施設、マンションの進出が新たな息吹をもたらす、**若い世代が移り住んで、にぎわいを生んでいます**。

そのような葛飾区で当社は、「**真心と感謝**」を胸に、創業から55年にわたって清掃業を営んでいます。ここまで続けてこられたのは、「**人と人とのつながり**」のおかげだと考えています。これは、先代から受け継ぎ、そして息子へと受け継がれる経営の根幹です。また、息子が39歳で社長を継いだことで社内に新しい風が吹き、若い社員が積極的に新しいアイデアや業務効率化の提案を出すようになり、活気が出てきました。創業以来初となる女性社員が加わったことも、職場に新たな視点をもたらしています。

私は支部会長として、「**世代や性別を超えたつながり**」を育みたいと考えてい

ます。商店街の中には、残念ながら後継者不在で廃業する事業者もあり、まちの活力がやや衰えていることも実感しています。だからこそ、「**若い力**」や「**女性の力**」を取り込み、**地域の課題に寄り添う取り組みを増やしたい**と思います。例えば、青年部では東京理科大学・葛飾区と連携し、学生が地域企業の課題解決に取り組む課題解決型学習に協力しています。参加学生の提案の質も高く、経営者にとって気付きも多いため、今後も継続したいと考えています。幸いにも、役員や会員の皆さまの長年の協力により、葛飾支部の組織基盤は盤石です。その基盤を活かし、**世代をつなぐコミュニティづくりと、人と地域を結ぶ活動に尽力します**。



青年部事業の「かつしか未来戦略会議」は、毎回100人近くが参加。区内若手経営者が葛飾区の未来について議論を交わす。